資料

2019年度　白石町立有明東小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標	白石町内共通実践目標＜達成率95%以上＞
本校の歴史と伝統を重んじ、連綿と受け継がれてきた「誠」の教育と、たくましい開拓・干拓精神の維持高揚に努めると共に知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな有明東小学校の子どもを育てる。	①　学力の向上(教職員の資質向上を含む) ②　心の教育の推進 ③　業務改善の推進と情報発信・地域との連携推進 （学校運営協議会との連携推進）	①　自ら進んで挨拶をする白石の子どもの育成（家庭・地域・学校で） ②　家庭学習や手伝いに進んで取組む白石の子どもの育成 ③　自力登校できる白石の子どもの育成

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　学力向上を目指す教育の推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	考える授業の創造	・年度末に教師向けの４段階アンケートを実施し、『児童に「読む力」、「書く力」、「考える力」をつけるために工夫を凝らした授業に取り組んだ』と回答する平均値が、3.5以上になることを目指す。 ・児童の「読む力」、「書く力」、「考える力」について、12月の学習状況調査では、4,5,6年生が県の平均値を上回ることを、また、１月のCRT調査では、全学年が全国平均値を上回ることを目指す。	・「読む力」、「書く力」、「考える力」の育成を意識し、児童の実態や学年の発達段階に応じた授業展開を工夫する。 ・週に１回、朝の時間を使って、「書く力」や「読む力」、「考える力」の育成を目指した取組を行う。また隔週１回、朝の時間を使って、基礎的・基本的な内容の定着を図る取組を行う。	B	・教師向けの４段階アンケートで、『児童に「読む力」、「書く力」、「考える力」をつけるために工夫を凝らした授業に取り組んだ』と回答する平均値は3.4で、目標に0.1届かなかった。 ・12月の学習状況調査において、４年生は算数以外で、５年生は国語以外で、６年生は全教科で県の平均値を上回った。国語の「読む」、「書く」、算数の「考える」に絞ってみると、４年生は、国語の「書く」と算数の「考える」が、５年生は、国語の「読む」と「書く」が、県の平均値を下回った。６年生は、下回るものはなかった。	・教師の向けの４段階アンケートは、年度末だけでなく、途中でも取ることで、意識付けをしていく。 ・長期休業中に学力向上研修会を行い、各学級ごとの、「読む力」、「書く力」、「考える力」を高めていくための具体的な取組を出し合って、よさを共有しながら授業改善の工夫について考える。 ・12月の学習状況調査結果を分析し、それをもとに、今後の共通の取組事項を決め、実践する。
教育活動	●志を高める教育	目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の取り組み	・「自他のよさを認め合い、共に高め合う児童の育成」を研究主題とした校内研究のまとめ段階におけるアンケートで、自己肯定感の高まり具合について尋ねる項目において、「高まった」、あるいは、「まあまあ高まった」と答える児童が８０%以上になることを目指す。	・研究授業を通して、「自他のよさを認め合い、共に高め合う児童」を育成する授業の在り方についての研修を深める。また、研修したことを日常の授業にも活かしていくよう努める。 ・日常の学習や生活場面において、児童のよさを見つけ、認めながら指導・支援にあたる。	B	・「思いやりの木」を設置し、互いに自他のよさを見つけるようにと呼びかけたところ、多くの児童が学年の垣根を越えて、「思いやりの木」に日常生活の中で見つけた自他のよさをカードに記入し、貼るようになった。 ・アンケートで、「自分にはよいところがある」と答えた児童が82.9%見られた。	・「思いやりの木」は、今年度限りの活動ではなく、これからも継続して取り組んでいく必要がある。 ・研究授業を核として、「自他のよさを認め合い、共に高め合う児童」を育成する授業の在り方について、さらに研修を深める。
教育活動	○図書館教育	図書館の授業活用	・図書館の図書を活用した授業を年１回以上全学級において行う。	・国語科で各単元の関連図書を活用した授業を行ったり、他教科においても積極的に図書を活用した授業を仕組んだりする。	A	・どの学級においても，図書室の本を活用した授業を積極的に取り入れたことで，読書への意欲が増し，選書に変化がみられた。	・司書担当が，年度当初に購入図書のリストをあげ，その活用方法について、学校司書補と担任教師との連携を行う。
教育活動	○読書	読書の奨励	・図書を年間１００冊以上借りる児童の割合を９０%以上にする。	・全校で時間を統一して朝の読書タイムに取り組む。 ・貸出冊数の多いクラスの放送や、月ごとの貸出冊数を担任に知らせるなどして、担任と協力して読書の推進に取り組む。 ・2冊貸出の日数を増やす。（雨の日等）	A	・貸出冊数100冊以上の児童の割合は92%であった。 ・担任の先生の協力やクラスでの声かけで貸出増加につながった。 ・100冊達成者のお知らせの放送や掲示物を見て意欲を見せる児童もいた。	・授業で活用できる資料を職員の先生方と相談し充実させる。 ・興味の引くよう、本の紹介の機会を増やす。
教育活動	○体育学習の充実	たのしい体育の実践	・体育の授業が楽しいと感じる児童の割合９０%以上を目指す。 ・運動が楽しいと感じ、進んで運動に親しむ児童の割合９０%以上を目指す。	・めあてやふりかえりを意識した学習を行う。 ・学年間のつながりを意識できるよう、資料の共有を図る。	A	・体育の授業が楽しいと感じる児童の割合が、９０%を超えた。できなかったことができるようになった成功体験をすることで自信を持ち、次の活動への意欲につながった。 ・高学年の児童は外部講師に指導をしていただき、専門的な知識や技能を習得することができた。また、運動の楽しさを改めて感じることができた。	・全学年が、一度は外部講師の授業を受けられるようにしたい。 ・運動領域によっては、体育の時間に、例えば1年生と6年生が一緒に行うなど、交流できる場を設けたい。

②　心の教育の推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの実態把握	・「いじめをしている」「いじめを受けている」児童０を継続する。	・定期的に調査（職員・児童・保護者）を行い、児童の実態を掴む。 ・全職員で連携して全児童をみとる。 ・児童理解連絡会を定期的に開き，問題事象の早期発見・早期対応を図る。	A	・年２回の児童アンケートを実施し、気になる児童に対しては、担任による面談を行った。また、週に１回の情報交換を職員全体で行い、早期に問題を共有する体制を整えている。 ・SCによる「心の教育」の講話を行ってもらうことで、全児童にSOSの出し方などを理解させることができた。	・情報共有できる体制やSCとの連携を今後も継続していく。 ・未然防止の取り組みについてさらに検討していく必要がある。
		学級集団の質の高揚	・Ｑ－Ｕアンケートを活用し、「安心して学び合うことができる」と答える児童の割合を９０%以上にする。	・授業や日常活動の中で、共に聴き合い学び合う場を意図的に設定する。 ・保護者と連絡を取り合い、共に児童を支えていく。 ・スクールカウンセラーなどの外部機関と連携しながら児童の困り感を軽減する。 ・Ｑ－Ｕの活用及び研修会を実施する。	A	・学校や学級での生活が楽しいと回答した児童が９２%であった。 ・Ｑ－Ｕアンケート「承認」に関する質問について，６月と１２月を比較すると，どの項目も「そう思う」「だいたい」と回答する児童が増えている。 ・困り感をもつ児童と保護者に積極的にスクールカウンセラーへの相談を勧めていくことができた。	・配慮が必要な児童に関しては，今年度に引き続き，スクールカウンセラーなどと連携し，支援の方法を協議していく。 ・Ｑ－Ｕアンケートを年１回実施したが，研修会を行うことができなかった。学級づくりや個別の指導のあり方を探るためにも，研修会を行う必要がある。
教育活動	●心の教育	自治能力の育成	・学級や学校の課題に気づき、みんなで話し合い改善していこうとする児童の割合を９０%以上にする。	・学級会の議題を考えることで、課題に気づく視点を育てる。 ・児童集会や縦割り班活動などの企画、運営をさせることで、自分たちの力でより良い学校生活にしていこうとする児童を育てる。	A	・代表委員会で決まったことをエコ・ボランティア委員会中心に，「思いやりの木」や「ふわふわことば集め」などを全校で取り組むことができた。 ・どの委員会も各集会などの企画、準備、運営等を担当し，よりよい学校生活にしていこうと活動することができた	・今年度に引き続き，１年間を通して自主的な活動ができるように仕向ける。
		挨拶の奨励	・いつでも、どこでも、誰にでも、気持ちの良いあいさつができる児童の割合を９０%以上にする。	・定期的に地区ごとのあいさつ運動を実施する。 ・各学年で児童の実態にあった挨拶のめあてを考え、遂行する。	B	・あいさつがよくできている児童、あいさつがよくできている時間、あいさつがよくできている場所などある一方、あいさつのできない児童、時間、場所がある。時と場合に応じたあいさつを指導する必要がある。	・地区ごとのあいさつ運動は継続する。 ・全校朝会や学級活動で、児童の実態に合わせ、時と場合に応じたあいさつの指導を行っていく。
		自己肯定感の醸成	・自分の良さに気づき、自分を大切にしようとする児童の割合を９０%以上にする。	・道徳の時間を核としてすべての教育活動において児童の心を耕していく。 ・帰りの会などで友だちの「いいとこ見つけ」をし、互いに認め合う場を設定する。	B	・自分には良いところがあると回答した児童が８３%であった。 ・道徳の時間や人権集会を通して，自分のよさや友だちのよさに気づき，いろいろな場面で相手を認める行為が見られるようになってきた。	・自己肯定感を高めることは，短期間では難しい。今後も，全校や学級での取り組みを継続していく必要がある。

③　業務改善の推進と情報発信・地域との連携推進

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務遂行の効率化に向けた取り組み	・各担当間の業務内容の情報共有を図り、効率的な業務遂行の取組を推進する。 ・定時退勤日を設定し、業務を効率的に遂行していく意識を高める。	・共有フォルダを整理し、データ蓄積と必要な様式、業務に必要なデータの共有化を行い、効果的に活用し、効率的に業務を行う。 ・週１回、定時退勤日を設定し、１８時００分退勤（行事黒板に表示）が実行できるよう見通しをもって業務を進めていく。	B	・定時退勤日を明示したことで、職員間においても定時退勤の雰囲気が醸し出され、実行されるようになってきた。それに伴い、時間外勤務時間の縮減にもつながった。 ・共有フォルダ内のデータ蓄積並びに必要なデータの整理等、業務の効率化に向けては課題が残った。	・学校行事の精選については概ねできているので、年間計画に基づき、業務を遂行していく上で年間の見通しを立てる。 ・サーバー内の共有フォルダが業務の効率化につながるように、随時よりよいものへと変えていくことができるよう働きかけていく。
学校運営	○地域・家庭との連携	地域貢献	・地域行事等への児童の参加率を85%以上にする。	・地域行事や空瓶回収等への積極的な参加を呼びかける。 ・学校運営協議会において地域との連携推進について協議をし、連携した活動を推進していく。	A	・地域行事等への児童の参加率は９６%であった。PTA行事との関わりから文書やメール等で参加を働きかけてきた。 ・学校運営協議会委員との連携により、児童の活動が、より地域のことを知る上での貴重な体験学習へとつながってきている。	・学校運営協議会やPTAとの連携で、学校・保護者・地域の協働体制を整えていく。
		情報の双方向発信	・「学校や児童の様子が分かる」「学校は相談しやすい」と回答する保護者の割合を９０%以上にする。	・学校だよりや学級だより、HP等を活用し学校の教育活動に関するあらゆる情報を継続的に発信していく。 ・困ったことや悩み等が相談しやすい体制を整えていく。	A	・学校や児童の様子が分かるように情報提供していると回答した保護者が９５%であった。 ・学校や児童のことについて相談や連絡が入った場合、職員間で情報を共有し、素早く対応した。	・学校行事での児童の活動の様子や学校の取り組み等を定期的にまた、継続的に情報として発信していく。行事計画等については、HPに早めに掲載し周知を図る。 ・保護者や地域の方々にとって、来校しやすい、相談しやすい雰囲気作りに努め、学校からの情報を積極的に伝える。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
教育活動	●健康・体つくり	望ましい生活習慣の形成	・「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、朝食をとって自力登校できる児童の割合を９０%以上にする。	・健康観察表の裏に、「朝食の喫食」や「自力登校」について確認する項目を加え、声かけにより児童に意識づけをさせる。 ・学級指導や学級活動・保健・家庭科等の授業の中で日々指導と声かけをしていく。 ・「保健だより」「食育だより」等を発行し、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて家庭に啓発する。	A	・全校での「早寝・早起き・朝ご飯週間」の取組を年2回行い、児童・保護者ともに意識するよいきっかけとなり、アンケートでも朝食喫食率は全体で９９%と高い結果が得られた。特に高学年においては、家庭科の学習により栄養のバランスを考えて食事を摂取できるようになった。 ・「自力登校」は、９１%の児童ができており、十分に達成できている。	・今後も栄養バランスの重要性を強調した食育指導をを行う。 ・自力登校ができていない児童には，家庭と連携をとり声かけを行う。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

保護者アンケート、児童アンケート、それに教職員アンケート等をもとに取りまとめた結果、全体的には良好な評価結果であった。学力向上に向けた取組では、学力向上コーディネーターが中心となり、全国・県学習状況調査結果の分析から課題の把握、対応策の検討、そして、全職員共通理解のもと共通実践に取り組んできた。教職員アンケートで回答した『児童に「読む力」「書く力」「考える力」をつけるために工夫を凝らした授業に取組む』という項目がわずかに目標値に届かなかったので、次年度に向けての課題とした。児童の挨拶については、よく挨拶ができている児童、よく挨拶ができている時間、場所等があった。あまり挨拶ができていない児童、時間帯、場所等については、児童の実態を探りながら家庭や地域と連携した指導を行っていきたい。保護者や地域の本校教育に対する関心は高く、授業参観や学校行事等への参加が多い。また、コミュニティ・スクール実践校としても地域の教育力を様々な形で活用させていただいてきている。さらに、家庭・地域との連携を深めながら、本校教育を充実させる取り組みを継続していきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目